

今週の株式相場見通し

* 日経平均 19,200~19,700円 TOPIX 1,570~1,620

* 期待材料 IoT社会の実現 IoT、AI活用による生産性改善

* 不安材料 地政学的リスク 中国経済の成長鈍化

北朝鮮情勢に伴う地政学的リスクの高まりにより、日米ともに株価は軟調な推移になっているが、今後の株価動向を予測する上で注目したいのは、やはり、緩やかな経済成長と低金利が共存し、株価が上昇しやすいゴルドロック相場が継続するか否かにあると思われる。ゴルドロック相場が崩れるには、長期金利が上昇するか、景気が減速するかのも主に2パターンが考えられるが、このどちらも足元では起きていない。米国の長期金利は地政学的リスクの上昇やインフレ指標の低迷、賃金の伸び悩みなどに伴い、低下傾向が依然として継続している。また、米国景気は8月のISM製造業景況指数が11年4月以来の高水準となり、7月の小売売上高は前月比の伸びが今年最大となるなど、良好な推移が継続している。アトランタ連銀のGDPNowによると、7-9月実質GDPも前期比年率3.2%増と順調な成長が見込まれている。加えて、日本、ユーロ圏、中国でも製造業の景況感は良好に推移しており、世界経済の復調基調に変化の兆しは見られない。現時点で、米国と北朝鮮が軍事衝突するという最悪の事態に至る可能性は低く、北朝鮮に対する地政学的リスクへの警戒感も9月9日の北朝鮮の建国記念日を通じて、一服することが見込まれる。一方で、9月相場で警戒すべきは、10月からの資産規模の縮小開始が発表されるものと思われる9月19~20日のFOMCに絡んで、米国の長期金利が上昇し、ドル高、米国株安となりゴルドロック相場が終焉を迎えるかにあると思われ、ドルと米国長期金利の動向を注視したい。米国の長期金利が低位で安定的に推移している限りは、株価の下落は大きくはならず、調整局面は好業績銘柄へ投資する良い機会になるものと思われる。(9月7日現在、松本 直志)

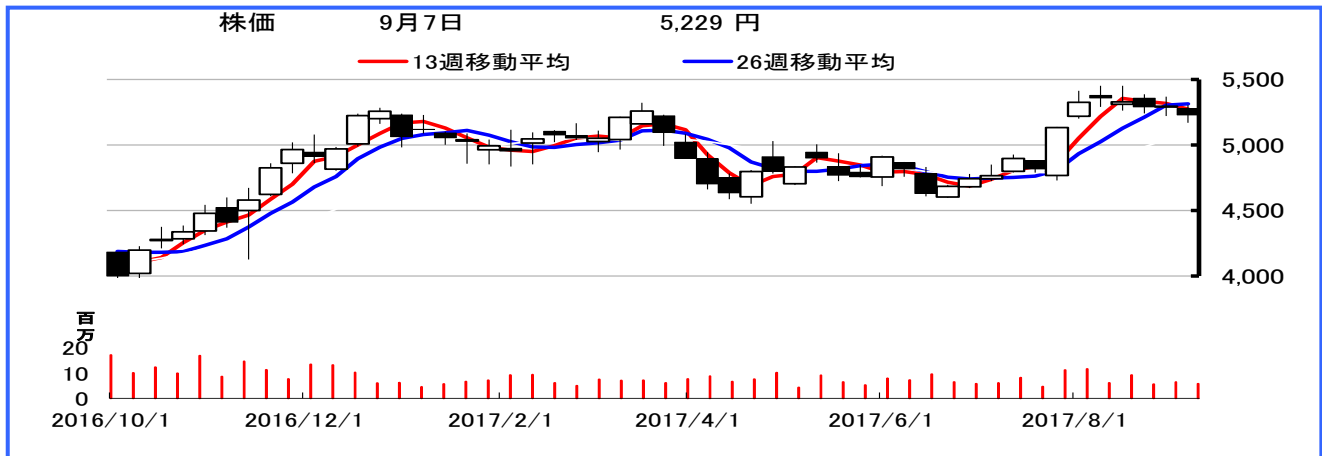
今週の予定

	国内	海外
9/11 (月)	7月機械受注(8:50) 8月マネーストック(8:50) 8月工作機械受注(15:00)	ノルウェー総選挙 欧州議会本会議(~14日) 食品見本市 Fine Food Australia(~14日)
12(火)	公明党山口代表 ロシア訪問(~18日) 神戸物産(3038)3Q決算	[米]アップル製品発表イベント フランクフルト国際自動車ショー(~24日)
13(水)	センサエキスポジャパン 2017(~15日) EV・PHV 普及活用技術展 2017 (~15日)	セミコン台湾 2017(~15日) 国際プラスチック・ゴム産業展 (~16日)
14(木)	ケニアとの投資協定発効 日本磁気共鳴医学会大会(~16日) アジア太平洋不整脈学会学術集会(~17日) オハラ(5218)3Q決算	[中]8月鉱工業生産(11:00) [中]8月小売売上高(11:00) [中]8月固定資産投資(11:00) [米]8月消費者物価指数(21:30)
15(金)	日本臨床分子形態学会総会・学術集会(~16日)	[米]8月小売売上高(21:30) [米]8月鉱工業生産(22:15)
16(土)	世界神経学会議(~21日)	メキシコ 独立記念日
17(日)	日本くすりと糖尿病学会学術集会(~18日)	マカオ立法会選挙
18(月)	敬老の日	国際原子力機関(IAEA)総会(~22日)

出所はロイター、ブルームバーグ、新聞各紙等より、時刻は日本時間(予定)

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

今週の参考銘柄 デンソー (6902) 東証1部



出所：業績に関する数値は決算短信、決算説明資料より

	16年3月期 (百万円) 前年比		17年3月期 (百万円) 前年比		18年3月期(予) (百万円) 前年比		株価(9/7)	5,229 円
売上高	4,524,522	5.0%	4,527,148	0.1%	4,740,000	4.7%	業種	輸送用機器
営業利益	315,728	-4.7%	330,551	4.7%	353,000	6.8%	売買単位	100 株
税前純利益	347,293	-6.6%	360,858	3.9%	388,000	7.5%	PER(予想)	14.6 倍
当期純利益	244,251	-5.5%	257,619	5.5%	280,000	8.7%	PBR(実績)	1.2 倍
EPS(円)	307.2		326.3		359.1		ROE(実績)	8.0 %
配当金(円)	120.0		120.0		120.0		配当利回り(予想)	2.3 %
							担当	多功 毅

トヨタ系で世界2位の自動車部品メーカー。18年3月期1Q決算における得意先別売上高構成比はトヨタグループ向け44.7%、トヨタグループ外44.6%、市販・新事業10.7%となっており、トヨタグループ外では日・米・欧・韓の大手自動車メーカーと幅広く取引関係がある。また、同期間における製品セグメント別の売上高構成比は、サーマルシステム30.4%、パワトレインシステム25.7%、インフォメーション&セーフティシステム16.4%、エレクトリフィケーションシステム10.3%、電子システム7.9%、モータ6.6%、その他自動車及びFA・新事業2.7%。

18年3月期1Q決算は前年比6.6%増収、38.6%営業増益の好決算となった。顧客別では主力のトヨタ向けに加えてGM、スズキ、フィアット・クライスラー・オートモービルズ、ホンダ向けが好調に推移した。製品別ではToyota Safety Sense Pの適用車種が拡大したインフォメーション&セーフティシステムを筆頭に、採用台数の増加を受けたパワトレインシステム、サーマルシステム等が好調に推移。円高による利益圧迫要因が一巡するなか、販売数量の増加による操業度向上効果や合理化効果が利益を牽引している。好決算を受けて、上期及び通期の業績予想を上方修正しているが、1Q実績を踏まえると保守的な予算であり、2Q決算発表時点での上方修正が期待される。

パワトレインに関する電動化関連、高度運転支援システムや自動運転関連、コネクティッド関連の製品に注力することで、20年度に売上高5兆円、営業利益率8%を計画しているが、これら先端製品の採用が想定以上に加速していることから、2Q決算発表時に同構想の見直し及び25年度を見据えた長期構想を発表する意向を示している。短期及び中長期の両観点で注目したい。

説明会より

銘柄 (コード) 市場 株価(9/7) 売買単位	コメント
アドウェイズ (2489) 東証マザーズ 499円 100株	1Q決算は、スマートフォン向けweb広告の売上が伸び前年同期比2.3%増収。運用型広告の業務効率化の成果が出始め、営業黒字転換。運用型広告の効率化を目指して広告配信完全自動最適化プラットフォーム「ユニコーン」を導入。10万通りのパターンから一番効果の高い広告を配信することができる。実験段階のため限定した顧客に安価で提供しており売上貢献は少ないが、良好な成果が出ている。データを集めて実績を積み重ねてから、拡販していく方針。(松本 直志)
SUMCO (3436) 東証1部 1,560円 100株	2Q決算は、需給逼迫を受けて300mmウエハの値上げが順調に進展しており、1Q決算時に公表した会社計画を上回る利益で着地。3Qについては、300mmウエハの値上げ基調の継続に加えて、200mmウエハについても値上げ効果が寄与することで一段の増益を計画している。なお、顧客の半導体メーカーとの長期契約交渉において投資採算を勘案した際に十分な値上げが通ったことを主因に、300mmウエハの増産投資を決定。(多功 毅)
ディスコ (6146) 東証1部 20,040円 100株	1Q決算は前年同期比42.0%増収、118.0%営業増益。半導体メモリや電子部品など幅広い用途で切断、研削装置、刃などの消耗品の販売が好調で、売上は444億円となり四半期で初の400億円台を達成。需要増に伴い利益が取れる案件を優先したことで、粗利益率は過去最高の58.9%となり、営業利益は2四半期連続で過去最高を更新。下期に向けた案件が早めに入ってきたことで、受注は前年同期比52.8%増の490億円に拡大。例年の季節性に伴い2Qは売上387億円、営業利益109億円、3Qは売上325億円、営業利益83億円へ減速する計画。(松本 直志)
ミネベア ミツミ (6479) 東証1部 1,752円 100株	1Q決算は、LEDバックライトが大手スマホメーカー向けに順調に推移したことに加えて、ボールベアリングの生産性改善効果、ミツミの連結効果やシナジー効果の発現、ゲーム機部品やカメラ用アクチュエーターの数量増効果が大きく貢献し、前年同期比60.6%増収、144.7%営業増益での着地。上期及び通期業績計画を上方修正。なお、下期については為替、顧客の生産動向が不透明とのことで期初予想を据え置いている。(多功 毅)
アルチザ (6778) 東証2部 823円 100株	17年7月期決算は、LTE、3G対応製品の販売、保守売上が減少し前年同期比11.5%減収。5G対応製品の開発本格化に加え、営業力強化のための人員増により費用が増加し赤字転落。今期は前年同期比50.7%増収、黒字転換の計画。海外向けにLTE-A向けテストの販売と保守が伸び、売上は大幅増加見込み。海外展開費用や国内販売費の増加、5G向け製品の開発体制強化により費用が増え、黒字転換も利益率は慎重な想定になっている。5G対応製品は今期中に投入する方針だが、業績計画にはあまり織り込まれていない。(松本 直志)
イリソ電子 (6908) 東証1部 5,670円 100株	1Q決算は、世界的に進む自動車の電装化の流れを追い風に、主力の車載向けコネクタがカメラやミリ波レーダーといった安全系に加えて、電動化の進むパワートレイン向けも好調に推移。また、売上高構成比は小さいものの産業用途も世界的なFA需要の拡大を受けて好調に推移しており、前年同期比12.5%増収、34.2%営業増益での着地。1Q決算時点では業績計画を据え置いているが、今後の上ブレ着地が期待される。(多功 毅)

いつもあなたのそばで 頼れる金融機関です

やまわ

■ ■ ■ 山和証券店舗網 ■ ■ ■

本店営業部	(03) 3668-5412	〒103-0026	中央区日本橋兜町 1-8
金町支店	(03) 3600-6681	〒125-0041	葛飾区東金町 1-22-9
高円寺支店	(03) 3311-1171	〒166-0003	杉並区高円寺南 3-58-25
大岡山支店	(03) 5754-5523	〒145-0062	大田区北千束 3-28-1 パークホームズ大岡山ラヴィアンコート 1F
巣鴨支店	(03) 3918-6311	〒170-0002	豊島区巣鴨 3-33-2
上板橋支店	(03) 3935-0311	〒174-0071	板橋区常盤台 4-22-12
深川支店	(03) 5600-7891	〒135-0005	江東区高橋 11-1
茂原支店	(0475) 25-1151	〒297-0023	茂原市千代田町 1-6 茂原サンヴェルプラザ 1F



○金融商品取引法に基づく表示事項

◇商号：山和証券株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第190号

加入協会：日本証券業協会

◇ご投資にかかる手数料の概要およびリスクについて

- ・国内上場株式等を購入する場合は、約定代金に対して最大 1.1772%(ただし約定代金 230,000円以下の場合には最大 2,700円)の委託手数料をいただきます。
- ・国内上場株式等は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行会社の信用状況の悪化等により投資元本を割り込むおそれがあります。商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので当該商品の契約締結前交付書面をよくお読みください。

○山和証券免責事項

- ・本アナリストレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断と責任でおねがいします。
- ・本アナリストレポートの全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

発行 山和証券調査室